



東京大空襲と市川市域



昭和20年3月9日午後10時30分頃、日本毛織中山工場が空襲を受け、工場内の第二梳毛工場など1,600坪ほどが全焼しました。

空襲を受けた日本毛織中山工場は、現在は、ショッピングセンター ニッケコルトンプラザとなり、多くの人が集まる場所となっています。

空襲を受けた日本毛織中山工場



ニッケコルトンプラザ(現在の様子)



工場を空襲した原因は不明ですが、それから1時間30分後の3月10日午前0時8分、325機のB29爆撃機が低空飛行で東京方面を空襲し、大きな被害をもたらした東京大空襲が始まりました。

東京大空襲の時、東京方面は昼間のような明るさだったとか、市川市域の上空を、アメリカ軍のB29爆撃機が何度も旋回していたという話がありました。

市川市域へも焼夷弾が落とされたようですが、大きな被害はなかったようです。

東京大空襲の時、市川市域では、市民等総動員で東京方面からの被災者の救護や受け入れを行うことで大きな役割を果たしました。

警防団員、病院関係者、現在の高校に該当する中等学校の防空補助隊、商店等による食糧挺身隊などが召集され、避難者の誘導や食糧の給与などが行われています。

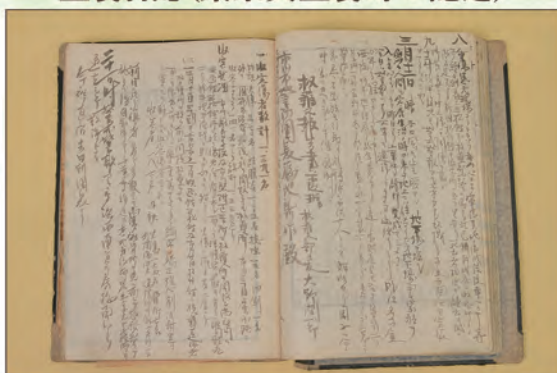
また、国府台陸軍病院、市川国民学校付近、映画館などが救護所となり、船橋・千葉方面へ被災者のさらなる移送も行われました。

結局、市川市へは戦災者が移り住むようになり、昭和20年度の時点で、その人数は14,832人となり、人口膨張と食糧難とともに市川市の戦後が始まりました。

東京大空襲の時に
原木地区に落とされた焼夷弾



空襲日誌(東京大空襲時の記述)



市川市医師会救護班の旗



救護訓練の様子

